

株式会社 UACJ

2021 年 3 月期第 3 四半期決算説明テレフォン・カンファレス

2021 年 2 月 4 日



イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ		
[企業 ID]	5741		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2021 年 3 月期第 3 四半期決算説明テレフォン・カンファレス		
[決算期]	2020 年度 第 3 四半期		
[日程]	2021 年 2 月 4 日		
[ページ数]	29		
[時間]	18:30 - 19:30 (合計 : 60 分、登壇 : 30 分、質疑応答 : 30 分)		
[開催場所]	電話会議		
[会場面積]			
[出席人数]	66 名		
[登壇者]	5 名		
	代表取締役社長兼社長執行役員	石原 美幸	(以下、石原)
	取締役兼常務執行役員	新堀 勝康	(以下、新堀)
	取締役兼常務執行役員	川島 輝夫	(以下、川島)
	財務本部副本部長・経理部長	坂上 淳	(以下、坂上)
	経営戦略本部コーポレートコミュニケーション部長	山崎 幸三	(以下、山崎)
[アナリスト名]*	SMBC 日興証券	山口 敦	
	野村証券	松本 裕司	
	モルガン・スタンレーMUFG 証券	白川 祐	

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasiasia.com

登壇

オペレーター：時間となりました。これより会議を始めさせていただきます。

本日は、株式会社 UACJ2020 年度第 3 四半期決算説明カンファレンスコールにご参加いただき、誠にありがとうございます。

このカンファレンスコールでは株式会社 UACJ のホームページに掲載されております説明資料を使って行われます。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですがホームページをご覧ください。なお、質疑応答はプレゼンテーションの後に行われます。

それでは、よろしくお願いいたします。

山崎：本日は、大変お忙しい中、カンファレンスコールにご参加いただき、誠にありがとうございます。本日の弊社出席者をご紹介します。代表取締役社長の石原美幸でございます。

石原：石原でございます。よろしくお願いいたします。

山崎：取締役常務執行役員、構造改革本部長、経営戦略本部長の新堀勝康でございます。

新堀：新堀です。よろしくお願いいたします。

山崎：取締役兼常務執行役員、財務本部長、川島輝夫でございます。

川島：川島でございます。よろしくお願いいたします。

山崎：財務本部副本部長、経理部長の坂上淳でございます。

坂上：坂上です。よろしくお願いいたします。

山崎：私は進行を務めさせていただきます、経営戦略本部コーポレートコミュニケーション部長の山崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日発表いたしました 2020 年度第 3 四半期業績につきまして、財務本部長の川島より、通期業績見通しにつきまして社長の石原より、構造改革の進捗につきまして構造改革本部長の新堀よりご説明させていただきます。決算説明会資料をご覧くださいながらご参加ください。

それでは、川島常務からお願いします。

川島：では、川島から 3 クォーター決算の実績について説明させていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



経常利益 △ 6 億円（前年同期比 19億円減）

■ 数量：前年同期比減

- ・UATH*1（タイ）、TAA*2（米国）の缶材が増加
- ・自動車を中心とした輸送用機械向けは3Q累計では減少も3Q(10～12月)からは回復基調

■ 経常利益：前年同期比 19億円減

◎ 増益要因

- ・UATH業績改善
- ・TAA業績改善
- ・棚卸評価関係の好転

△ 減益要因

- ・コロナ影響による販売減
- ・経営環境悪化に伴う販売減（米中貿易摩擦の長期化等）
- ・販売減に伴う国内製造所の操業度低下等

資料の3ページをまず開けてください。

3クォーターの状況のサマリーでございます。経常利益は6億円のマイナスということで前年同期比19億円の減となっております。詳細はまた別途、別のページで説明させていただきます。

サマリーとして、まず数量につきましてはタイが立ち上がってきたということ、それから、アメリカのほうで缶が旺盛ということで、増えてきております。

他方で、特にこの4月、5月、6月、この上期、ここ中心で自動車関係の量が減っているということで、10月以降、随分戻ってきたという状況ですけれども、3クォーターまで見ると前年と比べると下がっているという状況です。

それから利益につきましては、19億円減でございますけれども、増益としてはタイの工場が立ち上がってきた。それからTAAのほうも大変好調と。それから、地金価格が随分とここで上がってきていることによって棚卸評価関係が好転してきております。

他方で、上期を中心にコロナの影響、もちろん今、足元での影響ありますけれども、上期は特に大きかったということで、その関係で販売が減というかたちで、大変厳しい状況になっていると、影響ということでもあります。

2020年度 第3四半期業績



(単位：億円)

	2019年度 3Q累計 (A)	2020年度 3Q累計 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	4,628	4,074	△553
連結営業利益	56	31	△26
棚卸影響前 連結経常利益	61	23	△38
棚卸影響額	△48	△29	19
連結経常利益	13	△6	△19
連結当期純利益	6	△47	△53
Adjusted EBITDA	336	310	△26

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

4

ページを開けていただいて 4 ページでございます。

今期の3クォーターの実績でございます。真ん中のところが3クォーターの資料でございます。連結売上高につきましては、4,074億円ということで、対前期比553億円の減収でございます。

連結営業利益31億円ということで、これも前期と比べると26億円の減益と。棚卸影響前連結経常利益でございますけれども、23億円というかたちで、こちらにつきましては38億円の減益。他方で棚卸影響額につきましては絶対額としては29億円のマイナスではございますけれども、前期と比べると19億円の改善をしているということで。

次に、連結経常利益は6億円のマイナス、対前期比19億円の減益となっております。連結当期純利益については47億円のマイナスということで53億円の減益。それからAdjusted EBITDAにつきましては310億円ということでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



Asia's Meetings, Globally

セグメント別 売上高・営業利益



(単位：億円)

	2019年度 3Q累計 (A)		2020年度 3Q累計 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	3,757	70	3,414	73	△343	3
加工品・関連事業	1,438	25	1,221	△7	△217	△32
伸銅品	229	4	-	-	△229	△4
(調整額)	△796	△43	△561	△35	235	8
合計	4,628	56	4,074	31	△553	△26

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

5

売上高につきまして簡単に触れますと、553億円、減っておりますけれども、一番大きい要因がやはり数量構成が悪化をしているということで、この関係で約160億円ほど下がっていると見ております。

それと、地金価格、これも足元は上がってきているのですけれども、前半下がったというかたちで、それによる売値差、これが約130億円、それと為替というのがあります。

他方で、銅管の事業、これが去年の売却なのでございますけれども、去年は上期はありました。今期はないことで、その関係で約160億円ほど減収と見ております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2019年度 3Q累計 (A)	2020年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	518	542	24
箔 地	33	38	6
I T 材	13	19	6
自 動 車 材	113	83	△29
厚 板	28	28	1
その他一般材	148	119	△29
合 計	852	830	△21
	〔 国内市場向け 368 海外市場向け 484 〕	〔 国内市場向け 324 海外市場向け 506 〕	〔 △44 22 〕

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

6

損益の状況でございますが、次、開けて6ページをご覧ください。

販売の状況です。連結になります。まずアルミ板でございます。こちらにつきましては3クォーター、トータルで83万トンということで、前期と比べると2万1,000トンほど減っているという状況です。

下に簡単に書いてありますけれども、国内のほうが4万4,000トン減って、海外が2万2,000トン増えているという状況です。

品種別に見ると、大きく増えているのがやはり缶材です。2万4,000トンと。こちらはタイ、それからアメリカ、ともに量が大きく増えております。その関係でプラスですけれども。逆に国内、それからタイが立ち上がってきておりますので、国内からの輸出が減っているということで、国内で減って、国内生産関係では減って海外が増えているということで、ネットすると2万4,000トン増えているということになります。

それからIT材は、コロナの関係でパソコンの需要等が良いということで6,000トンほど増えていると。それから自動車材、これは新型コロナの影響で特に上期、お客さんの工場の操業が落ちているということで、これを受けて3クォーターまでを見ると2万9,000トンほどマイナス。3クォーターから随分と需要が戻ってきていまして、従来を見ると9割以上戻ってきているのですが、やっぱり上期の状況が大きく影響を受けております。

それから厚板。これは今後増えてくると予想されるのですがけれども、その他は前年並みということでございます。

サポート

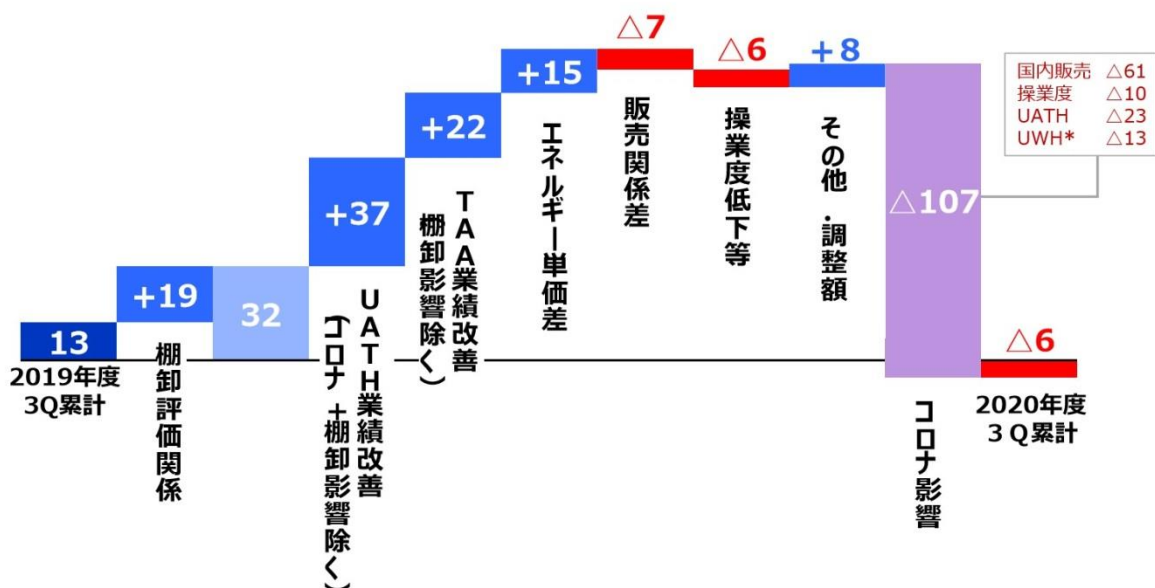
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

連結経常損益分析 (2019年度 3Q累計 → 2020年度 3Q累計)



13億円 (2019年度 3Q累計) → **△ 6** 億円 (2020年度 3Q累計)

(単位：億円)



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

7

ページを開けてください。損益の状況です。7ページです。

昨年3クォーターが13億円の黒字。それから、この3クォーターが6億円の赤字ということで、19億円ほど損益が悪化しております。それを分析しております。

まず、棚卸評価関係、こちらが冒頭で触れましたけれども、昨年と比べるとプラス19億円というかたちでプラスになっております。一番大きな、見ていただいて、UATH業績改善、これが37億円、それからTAA業績改善が22億円。コロナとか評価差を除いております。

UATH業績改善については上期、コロナの影響があったのですが、昨年の操業がフルになってきているということで、足元、また後で触れますけれども、大変好調な販売量でございますけれども。コロナの関係が[音声不明瞭]、37億円というかたちで、合わせて59億円、これが大変損益の底上げになっております。

それとエネルギー単価差、これが上期では大変原料価格下がったと、プラスに効いております。一番大きな、この一番右にありますけれども、コロナの影響と。3クォーターまでで見ると約107億円ほど、この影響があるだろうと自分たちは分析をしております。結果として6億円のマイナスというのが3クォーターの実績でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2020年度 3Q <連結貸借対照表>



手持ち資金を手厚くするも、たな卸資産圧縮などにより総資産180億円の圧縮

(単位：億円)

	20/3末	20/12末	20/3末比 増減額	
現金及び預金	287	467	180	新型コロナウイルス禍への対応で 手持ち資金の増加
受取手形及び売掛金	1,009	1,113	104	
たな卸資産	1,359	1,243	△ 116	たな卸資産の圧縮による フリーキャッシュフロー好転
その他流動資産	233	176	△ 59	
固定資産	4,255	3,964	△ 291	
投資その他の資産	384	387	3	
資産合計	7,528	7,348	△ 180	事業売却による 総資産の減少 (構造改革の成果)
支払手形及び買掛金	960	978	17	
短期借入金	1,078	1,098	20	
長期借入金	2,362	2,371	8	
その他	1,100	1,035	△ 65	
株主資本合計	1,828	1,771	△ 57	
その他包括利益・支配株主持分	200	96	△ 104	
負債及び純資産合計	7,528	7,348	△ 180	

8

ページを開けていただいて 8 ページでございます。

バランスシートを簡単につけております。12月末の資産合計 7,348 億円ということで 180 億円ほど減っております。大きく減っているのが固定資産、こちらが 290 億円減っております。

3クォーターまでの設備投資が約 119 億円あります。これに対して減価償却、これは約 205 億円あります。ギャップで見ると 86 億円、減っています。それから為替の関係、海外の資産、特に UATH、タイの資産高、これが為替の評価替えで約 120 億円減っているのかなと見ております。

それとちょっと預金が増えています。これは右に書いておりますけれども、新型コロナウイルスの関係でちょっと手持ちを集めております。ただ、キャッシュフローが安定しておりますので、3月に向けては昨年並み以下にしておこうかなとは考えています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

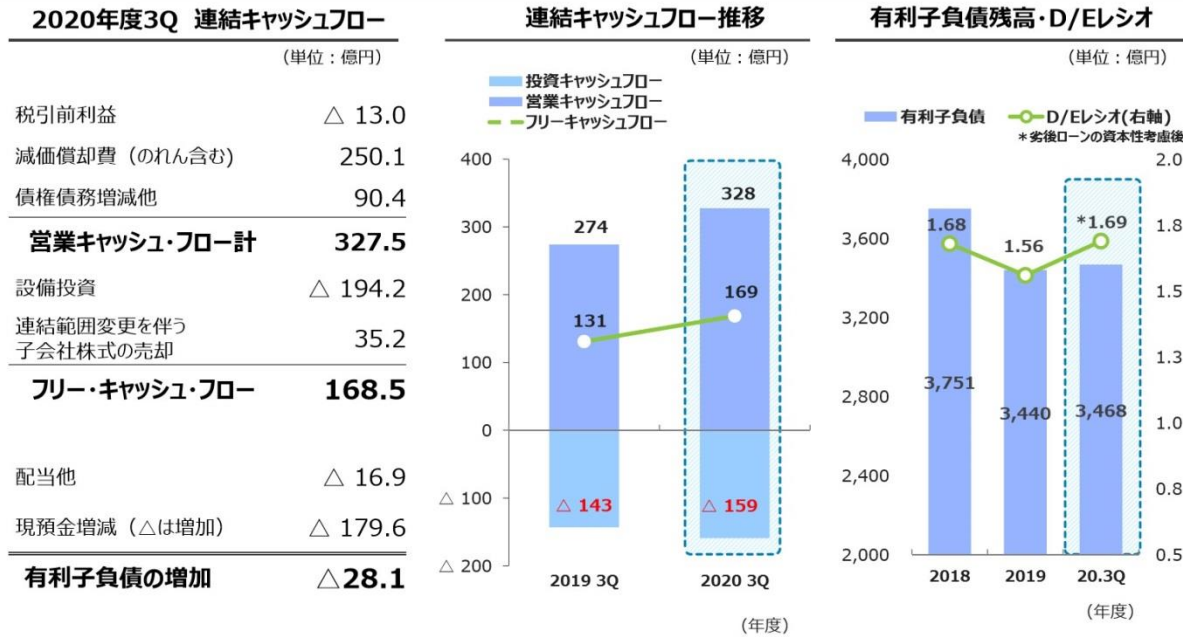


8

2020年度3Q <連結キャッシュフロー計算書>



2020年度3Qはコロナ禍においてもフリーキャッシュフローは黒字を維持



ページ開けていただいて、9 ページ、3 クォーターまでの実績のキャッシュフローです。

上のほうにありますけれども、営業キャッシュフローがプラスの 327.5 億円というかたちで、大変、コロナの影響はあったのですけれども、償却もありますし、債権債務が思ったほど悪化しなかったというかたちで 327.5 億円の営業キャッシュフロー計が出ました。

これに対して投資、これがバランスシートベースが先ほど 119 億円と言いましたけれども、キャッシュベースが 194 億円であります。それと、これは 12 月に実施いたしました物流の株とか、それから押出のインドネシアの株の売却ということで、35 億円入りまして、フリーキャッシュフローは 168.5 億円。コロナの影響もあったのですけれども、フリーキャッシュフローは大変[音声不明瞭]でありました。

結果として、ただし預金残高を 180 億円ほど 3 月に比べると積み上げておりますので、デットについては 28 億円ほど表面的には増えています。ただ、実質的には引くと[音声不明瞭]的な減になっている。右のほうに棒グラフがありますけれども、一番右側が 3 クォーターです。3,468 億円というかたちで、昨年の 3 月末が 3,440 億円なので 28 億円ほど増えております。

多分下期、3 月に向けてはさらに下げて、3,370~3380 億円というところまでデットは下げていけるのではないかなと今考えています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

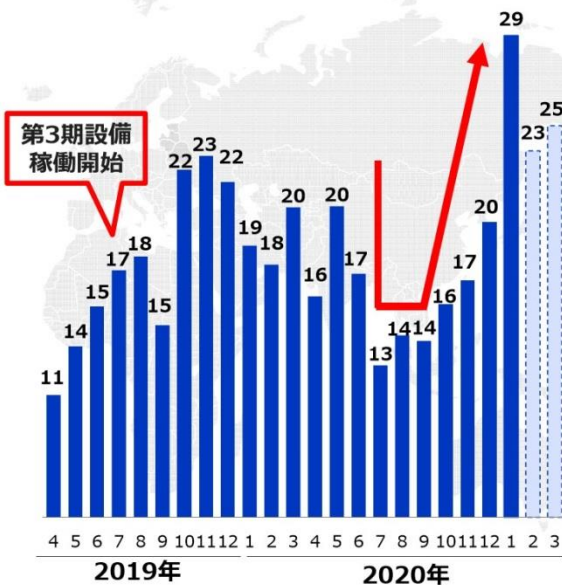


タイ(UATH)の状況 ~2020年度 3Q総括



コロナ影響のボトムは3Q、12月からは旺盛な需要が追い風となり、販売量は増加へ

UATH 月次販売量 (単位: 千t)



3Q総括

缶材需要： コロナ影響による販売減のボトムは3Q(7~9月)
12月より、旺盛な需要が追い風となり月販20千t強まで回復

生産量： 約13千t/月 (3Q: 7~9月)

販売量： 約13千t/月 (3Q: 7~9月)

損益：	(億円)		
	19年 3Q累計	20年 3Q累計	前年 同期比
売上高	464	468	4
営業利益	△35	△30	5
経常利益	▲39	▲37	2
棚卸影響前 経常利益	△43	△29	14

10

10 ページでございます。

大変気になるタイの状況です。販売数量の推移が棒グラフにあります。見ていただくように、7、8、9、タイで言うと3クォーター、これがやはりコロナの関係で大変下回って、厳しい状況でした。これが徐々に積み上がってきまして、12月、これは2万トンというかたちで、生産は2万5,000トンを超えて過去最高の販売、生産量を記録しました。

1月、これは2万9,000トン、これは終わっておりますが実績です。過去最高の販売量を記録したということです。2月、3月、2万3,000、2万5,000と見ています。

これを受けて右のほうの損益、棚卸の、まだ赤字ではございますけれども、前年同期比ですね、10億円ほど好転をしているというのが上期の3クォーターの資料です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

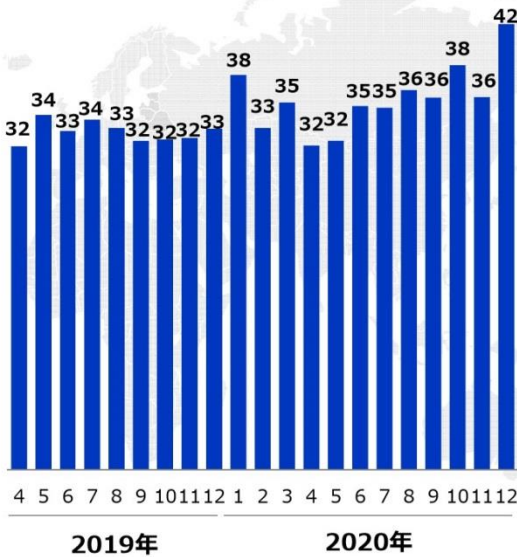


米国(TAA)の状況 ~2020年度 3Q総括



コロナ禍でも旺盛な北米缶需要を取り込み、増収増益

TAA 月次販売量 (単位: 千t)



3Q総括

缶材需要：旺盛な需要環境継続

販売量：約39千t/月 (10~12月)

設備：約450千t/年 体制始動

損益：	(億円)		
	19年 3Q累計	20年 3Q累計	前年 同期比
売上高	963	995	32
営業利益	31	77	45
経常利益	13	60	47
棚卸影響前 経常利益	41	63	23

11

ページ開いていただいて、11 ページでございます。

TAA の状況、こちらについては見ていただくようにアメリカの場合は大変缶材の需要が好調ということで、3クォーターの10月、12月までの販売が3万9,000トンということで、年間で見るとまた45万トンベースでずっと推移しているということです。これを受けまして棚卸影響前経常利益でも63億円、3クォーターまでで63億円の利益と大きな利益が出ているというかたちで3クォーターまで終わっているという状況です。

以上が3クォーターまでの業績でございました。

石原：それでは引き続き、石原から20年度通期での業績の見通しについてご説明を申し上げます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2020年度 通期業績見通し



(単位：億円)

	2020年度 (2Q時開示) (A)	2020年度 (最新見通し) (B)	2019年度 (C)	増減 (B) - (A)	増減 (B) - (C)
連結売上高	5,500	5,600	6,151	100	△551
連結営業利益	35	80	101	45	△21
棚卸影響前 連結経常利益	1	22	98	21	△76
棚卸影響額	△36	△12	△60	23	48
連結経常利益	△35	10	38	45	△28
連結当期純利益	△95	△65	20	30	△85
Adjusted EBITDA	413	437	473	24	△36

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

13

20年度通期の業績は13ページ目にございますように、連結売上高が20年度2クォーター時の開示に比べましておよそ100億円増えて5,600億円になる予定でございます。

連結営業利益も80億円、連結経常利益10億円ということになりますけれども、これらの要因としては板材における自動車材、パネル材が中心となりますけれども、自動車材。そして、押出における自動車材関連、大変増えてきたということもありますし、一段の需要回復が伴ってきたということ。そしてアルミ地金の上昇ということもございますので、棚卸評価関係が好転してきたといったことから通期の業績につきましては先ほどのように上方修正をさせていただきます。

本業での利益も好転してきておりますので、売上高の比率だけではなくて構造改革も相まって収益性の向上が確実に上昇してきたと言えると思います。

棚卸影響前連結経常利益22億円でございますけれども、構造改革に伴う損益などを含めると連結当期純利益はマイナスの65億円という予定でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



アルミ板 品種別売上数量



(単位:千トン)

品 種	2020年度 (2Q時開示) (A)	2020年度 (最新見通し) (B)	2019年度 (C)	増 減 (B) - (A)	増 減 (B) - (C)
缶 材	733	721	702	△12	19
箔 地	54	52	44	△2	8
I T 材	24	24	17	1	8
自 動 車 材	117	122	152	5	△29
厚 板	39	40	39	2	1
その他一般材	159	182	199	24	△16
合 計	1,125	1,142	1,153	17	△11
	国内市場向け 435 海外市場向け 691	国内市場向け 439 海外市場向け 703	国内市場向け 483 海外市場向け 669	5 12	△44 33

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

14

14 ページにいていただいで、品種別の売上はどのように見ているかということでございますけれども、缶材が少し 19 年度に比べて増えます。ただし 20 年、少し見ていたものに比べますとやはり国内の缶材の伸びが堅調ではないということもあって若干減るという見込みを見ております。

自動車材については 2 クォーターの開示のときに比べまして大きく好転をして 12 万トン、12 万 2,000 トンになる予定でございます。

合計のところに書いてございますように、国内市場において 5,000 トンほど、20 年の見通しと 2 クォーターでの開示時点の予想が少し上回って増加をしてみりました。しかしながら 19 年と比べますとまだまだ回復の途上といったことが伺えるかと思ます。

反面、海外市場向けにつきましては 19 年度比、あるいは 2 クォーターでの開示時点よりもしっかりと増加ができていくということになります。

その他一般材で数量が少し増えておりますけれども、これは米国向けの一般材の拡販等々も進んでいましたことも一因となって向上してきたということが言えるかと思ます。

全体、国内、海外ともに 2 クォーター時の見通しからは増加をいたす予定でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



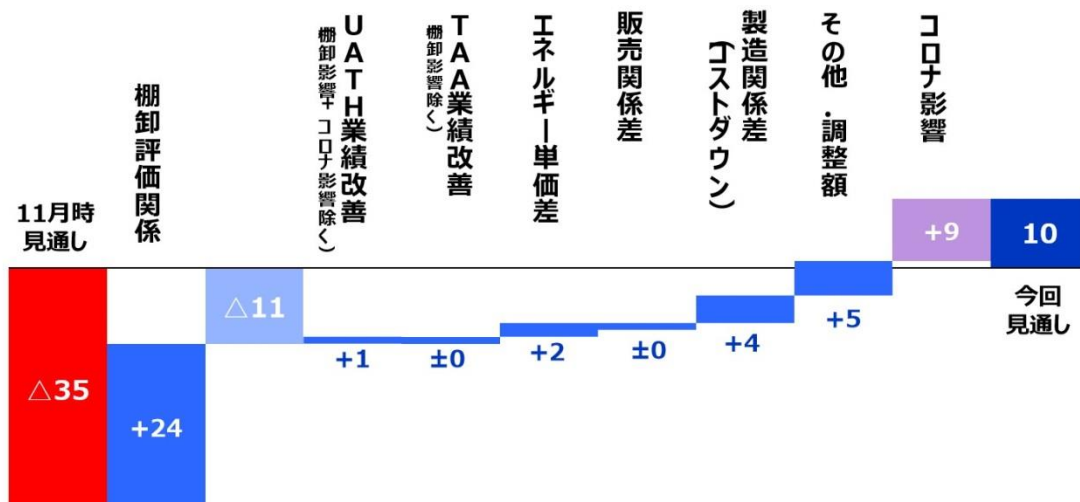
連結経常損益分析

(2020年度11月時見通し → 2020年度 今回見通し)



△35億円 (11月時見通し) → 10億円 (今回見通し)

(単位：億円)



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

15

15 ページ目に、連結経常損益の分析をしております。

2 クォーター時の想定から棚卸評価関係が増加をするということ。増益の要因としてはタイ、UATH ですね、と北米 TAA の関係が好転をし、エネルギー単価差でも好転が見えるということ。併せて国内における製造のコストダウン。これは体質改善等が功を奏して4 億円のコストダウンができていたということ。

あと、コロナ影響がプラス9 億円ございますけれども、コロナの影響が少し減じて、特に国内の自動車向けの板材、あるいは自動車向けの押出材が需要の回復を見ているのと、押出関係については自動車関係以外に高収益な型材の拡販戦略といったものが功を奏してこのような好転につながりました。

その他・調整額にはホワイトホール・インダストリーズですとか、あるいはオーストラリアの原料部門での好転が含まれております。

そういったことで今回10 億円の利益の見通しを立てております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



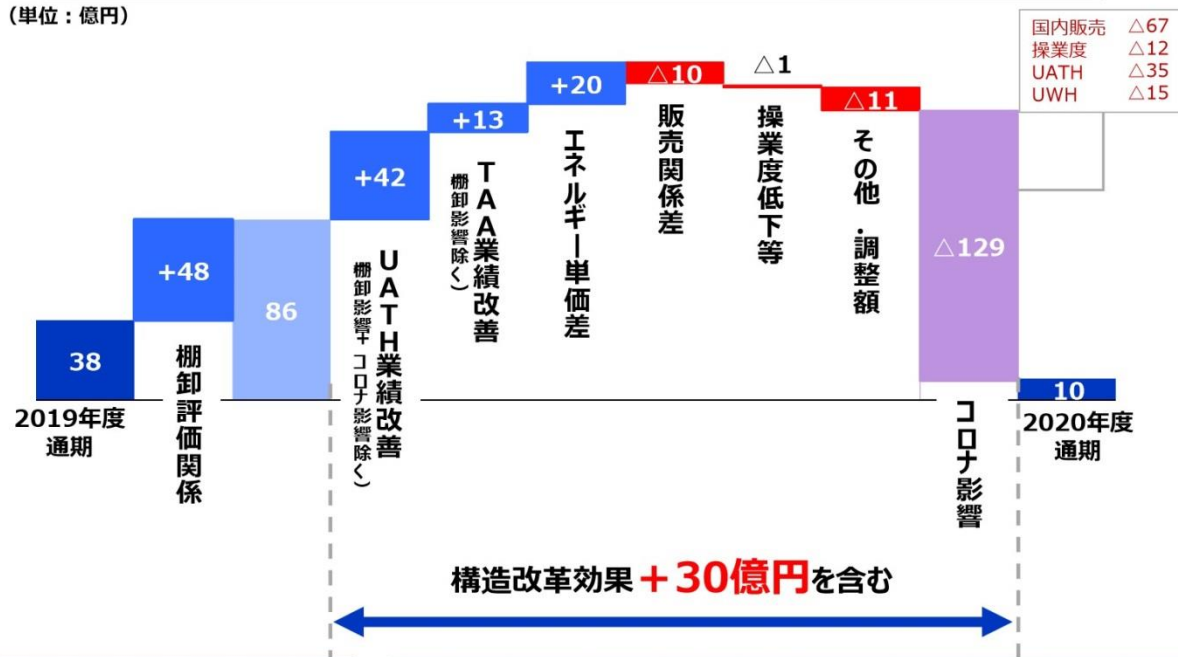
連結経常損益分析

(2019年度 → 2020年度 今回見通し)



38億円 (2019年度) → 10億円 (2020年度 今回見通し)

(単位：億円)



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

16

16 ページ目には、19 年度の比較でウォーターフォールをつけておりますけれども。

基本的に UATH 業績改善、あるいは TAA 業績改善、エネルギー単価差といった要因は先ほどのご説明と同じになります。併せて、棚卸評価関係が好転したということになります。

減益については、販売関係でまだまだ厚板を中心として米中貿易摩擦であったり、マクロ環境の悪化等々が続いていることが大きなものであります。コロナ影響も 129 億円を見込んでおまして、前回見込んでいたよりは減少をするという見込みでございます。結果として、2020 年度の経常利益につきましては 10 億円を見込んでおります。

以上が 20 年の通期の見通しでございました。

新堀：それでは 17 ページ以降、構造改革の進捗ということで新堀のほうからご説明申し上げます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



構造改革の各施策はロードマップに沿って計画通りに進捗



18 ページ、構造改革の進捗をご覧ください。

基本的にはロードマップに沿って計画どおり進捗をしてございます。主要な施策である生産拠点集約、大型投資収益化、不採算分野/ノンコア分野撤退、ガバナンスマネジメント、概ねいろいろなプランにつきましてはインラインで進捗をしているという意味で、それが赤い線で示されております。

しかしながら、集約効果というところの中で、政策というのが集約のところ、一部遅れているようなことが示されておりますが、基本的にはこれはコロナ影響がないとは言えないということで、そのようなことでお客様の品種移管・認定等が遅れているということの中で、それが集約効果としては遅れていると判断されるようなこともございますので、そうしたことを一部についてはこのように示させていただいております。

そういった意味では不採算分野/ノンコア分野撤退のところ、相手がいるようなお話の場合にはそういう意味で同じように影響がなしとは言えないのですけれども、少なくとも今はコロナを原因、あるいは理由としてそういったことがうまくいっていないということではございませんので、この部分では全て予定どおりとさせていただいております。

国内収益構造改革は全ての施策がほぼ計画通り進捗

生産拠点の集約

深谷製造所下工程停止

- ✓ 自動車材の移管が完了前に需要が回復したことにより稼働継続
→21年度4Qに計画通り停止

日光製造所閉鎖

- ✓ 自動車熱交材の製造工程移管に伴う、顧客との調整も完了し、20年度4Qに計画通り閉鎖

押出小山/名古屋プレス集約と適正化

- ✓ 最新鋭プレスを活用した自動車材の生産開始

最適生産体制・品種構成改善

- ✓ 缶材、自動車材、電池材に加え、IT材、液晶半導体製造装置向け厚板などコロナ禍でも需要が増加している商材の重点販売を実施
- ✓ 価格是正交渉の継続
- ✓ 国内4製造所の生産モニタリング強化継続

間接費削減

- ✓ 間接部門の業務効率化に向け、BPR*を実施。コーポレート機能の集約及び、スリム化に向けた最適体制を検討中
- ✓ 経費コントロールを強化し、経費総額を抑制

*ビジネスプロセス・リエンジニアリングの略称: 社内の業務内容やフロー、組織の構造などを根本的に見直し、再設計すること

19

19 ページ、次のページをご覧ください。

国内収益構造改革の進捗です。生産拠点の集約につきましては、深谷のところで一部自動車材の移管ということの中で停止をしようと思っていたものは稼働を継続ということがございます。実際には、福井の新ラインの立ち上げとセットのことがここにございまして、そこがお客様の認定の、先ほど申し上げました認定の関係で一部遅れがあるようなところで、稼働を継続せざるを得ないようなところがあるということでございます。

しかしながら、これも一時的な遅れと考えておりますので、計画的にはきちんとキャッチアップができるものと考えています。

日光製造所閉鎖につきましては、生產品種の移管につきましてはほぼ調整を終わっておりまして、この3月、もう直前に迫っておりますけれども、従業員1人1人の対応等も進めておりまして、そういった意味で計画どおり完了させることができると考えております。

押出関係につきましても、最新鋭プレスの稼働ということの中で自動車に向けて目的としていましたところについての生産も開始しているということございまして、集約に向けてはお客様との細かい話をいろいろ詰めていく中で、実際にはいろいろな軌道修正も含めて対応を粛々と進めております。

最適な生産体制という意味では缶材、自動車材、あるいは電池といったような主要な製品に加えてITや液晶半導体など、今、需要が増加しているような商材についても重点的にきちんと販売ができるような対応整備をしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

それとともに価格是正も全般的に必要なところについてはご相談しながら対応を進めているところであります。

間接費削減につきましては、前回のときでも BPR を進めるということでご紹介をしました。その結果として業務の中身を見たときに、やはり仕事が分散していて非効率であるところとか、仕事の中身としてもっと改善が進められるところがあるのではないかとか、そのいったご指摘が出てきたところでありまして、そうしたことの効率化に向けてこれから体制を整備して対応していく所存であります。

経費コントロールもコロナが明けて元に戻るということではなく、基本的にはアフターコロナの中で変わってきたビジネススタイルということをきちんと把握した中で経費総額の抑制を進めてまいり所存であります。

選択と集中（不採算分野/ノンコア分野撤退）



3Qでも国内・海外共に採算性・効率性の観点からの事業再編を実行

国内事業

日光製造所閉鎖
金属加工深谷工場の閉鎖
金属加工大阪工場の閉鎖
物流子会社株式譲渡
等

海外事業

インドネシア押出会社譲渡手続き完了
タイPF熱交*事業の譲渡決定
タイ押出加工 アユタヤ工場閉鎖
等

特別損失として 約△40億円

特別利益として 約 20億円 計上

*冷房専用エアコン室外機用オールアルミ熱交換器

20

20 ページに参ります。

現在、選択と集中の状況のところで、色を変えているところがこの3クォーターに実施をしたところでございます。国内事業では物流子会社の株式譲渡というものを12月に完了いたしました。こは66.7%をセンコー様に譲渡したというかたちでございます。

引き続きこの部分でも、当社はサプライチェーンの中で非常に重要な部分を占めておりますので、そこについてきちんとした関与は続けて、お客様等との間で、その点でもこれまで以上の対応ができるように努めてまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



海外事業ではインドネシアの押出会社、こちらのほうの譲渡手続きが12月末までに完了をいたしました。それからタイのエアコン関係のいわゆる熱交事業、こちらのほうの譲渡も確定をいたしました。

あとは本日、この資料と併せてご報告しておりますけれども、タイの押出加工でアユタヤ工場を閉鎖することといたしました。従業員への説明もこれを踏まえて開始をしまして、お客様との話をし、およそ1年かけて丁寧に対応しながら閉鎖を進めてまいりたいと考えております。

この他にもリリースにはしておりませんが直接構造改革ということではございませんけれども、缶アルミ製品の製造子会社をアルミセンターというところに統合するなど、製販一体という中で経営強化の施策はそれぞれ打っていつている状況であります。

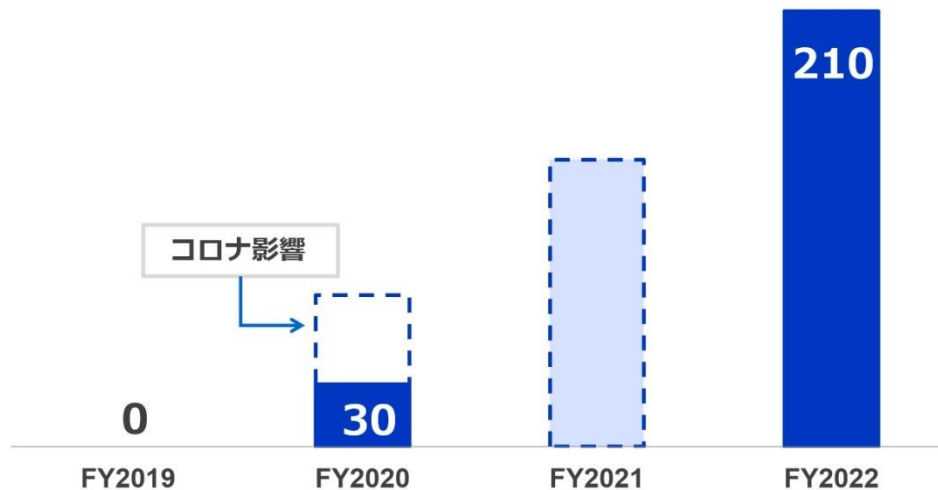
構造改革効果の推移



コロナ禍においても、構造改革効果に徹底的にこだわり、22年度の目標は堅持する

収益改善効果（2019→2022年度） +210億円

(単位：億円)



21

あと、構造改革効果の推移ということで21ページをご覧ください。

コロナ影響ということで、また2クォーターと同様、その辺の推移を示してございます。現在のところでは、22年までの中で大きな変化はないと考えております。コロナ影響があって、今年度のいわゆる効果は30億円ということで少し据え置きさせていただいておりますが、国内で実際には少し増えて、いわゆる稼働が上がってきたということもございまして、

一方でアメリカのホワイトホール・インダストリーズとかそういったところではロックダウンの影響とかそういったところが残っていることの中で一部マイナスが増えているところがございまして、全体的な影響としてはこのとおりで、大体同じ程度かなと考えているところでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



タイ(UATH) Can to Can Journey 活動



タイ政府主導の環境負荷低減活動であるアルミ缶リサイクル推進プロジェクトに参画

Can to Can Journey

政府、業界関係者をUATHに招き、アルミ缶のリサイクル性、Can to CanのClosed Loop（アルミ缶プロセスにてアルミを再利用する循環）を理解して頂く活動

参画企業・団体



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

22

最後に 22 ページ。

こちらでも直接は構造改革とは結びつきませんが、タイでの今の缶材についての状況についてご報告いたします。タイは政府が主導している環境負荷低減活動という中でアルミ缶のリサイクル推進プロジェクトということを立て上げております。その中に当社のタイ UATH も参画させていただいておまして、積極的にアルミの再利用、循環ループを対応できるように貢献しているところでございます。

こうした活動が実際にはタイの中でのアルミ缶需要の喚起ということにもつながっておりまして、われわれがきちんと立ち上げてきた設備を缶材として供給できることにつながっていくということで、こういった動き、ESG 関係の動きももっと強めてまいりたいと思っております。

以上で構造改革の進捗状況についてご報告、終了いたします。

石原：それでは今後の IR イベントについて補足させていただきます。

5月12日に2021年3月期の本決算を予定しております。その際に、新中期経営計画の骨子について発表をいたします。併せて、5月中旬から6月上旬において新中期経営計画の詳細を含む経営方針説明会、これを別途開催させていただく予定でございます。

以上でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



質疑応答

山崎：当社からのご説明は以上でございます。これより、皆様からのご質問をお受けいたします。質疑応答はオペレーターの説明に従いますので、よろしく願いいたします。

オペレーター：それでは、ご質問を希望される方は順にオペレーターよりご案内いたしますので、そのままお待ちください。

それでは、最初のご質問者をご紹介します。最初のご質問は SMBC 日興証券、山口様です。それでは、山口様、お願いいたします。

山口：いつもお世話になっております。ありがとうございます。キャッシュフローが出ていて、インプレッシブな内容だったと思います。10 ページ目と 11 ページ目を見ていて、ちょっと驚いたのですが、ご解説いただきたいのは、まず、それぞれ UATH と TAA の年間の業績をどう見ているか教えていただけますか。

これが 1 点目で、2 点目はこの出荷が 2Q というところに跳ねているところとか、11 ページ目のこの 42 と跳ねているところに関して、需要環境も含め、何が起きているのかということと、サステナビリティ、この持続性についてご解説をいただければというのが 1 点目と 2 点目になります。

あと、もう 1 点あるので、それもこの件が終わったらまた聞きます。教えてください。

川島：では、川島から UATH の年間損益ということですが、3 クォーターまででマイナスの 37 億というところがございますけれども、年間で取りあえず今、経常利益に関しては、年間マイナス 50 億というかたちで見えております。

それから、TAA につきましては、3 クォーターまでで 60 億の利益でございますけれども、年間で 84 億という利益を今予想しております。

山口：ありがとうございます。できれば売上高、営業利益、経常利益。

川島：そうすると、UATH 年間では売上高 642 億と、それから営業利益はマイナスの 32 億、経常利益はマイナスの 50 億という状況でございます。それから、TAA。これは売上高が 1,415 億、営業利益が 107 億、経常利益が 84 億というのが今、見ている予想の数字でございます。

それから、UATH の操業の状況。先ほど申しましたように、1 月が実績で 2 万 9,000 トンということで、2 月、3 月ちょっと表示上は 2 万 3,000 トン、2 万 5,000 トンとちょっと下がっております。

総じて、2021 年は受注状況で見ると、だいたいこのぐらい、31 万トンぐらいの注文はいただいておりますので、だいたいもとの考えていたフル操業に近づいてくると、なるだろうというふうに見ております。

それから、アメリカの TAA。これ 12 月、4 万ちょっと高かったです。ただ、4 万 2,000 トンというのは月あたりだいたい 3 万 8,000 トンだと 45 万トンベースなので、ちょっと高いけども、年間でいけると見て、やっぱりこの 45 万トンぐらいの注文量がアメリカ、実際、缶が強くて、もうずいぶん注文で成約しておりますので、確実にこのぐらいの数量はいくだろうというふうに見ております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



山口：この UATH の需要というのはタイ国内ですか。それとも、アメリカにも輸出したりとかしているのですか。12 月の通関統計を見ると、タイでアルミの板の輸出が大変強かったのを見て、強いのかなと思っていたのですが、教えてください。

川島：川島ですけども、大半は輸出ですね。アメリカにも強いです。アメリカのほうにも需要が強くて、TAA のサポートも含めて、アメリカのほうにも缶材を出しているというところがございます。

山口：では、このままでいきますと、念願のというか、営業損益とか経常損益で黒字化を狙っていくというのは、例えば、たればですけど、この数字が掛ける 12 倍というわけではないでしょうけども、続けばかなりそういう目標に近づくという見方でよろしいのですか。

川島：結構です。今、これから予算を作っておりますけれども、生産量で見れば、たぶんこのぐらいだろうと。ずいぶん注文もすでに成約されていますので、間違いのないと思っています。ただ、一つだけちょっと懸念は為替です。ちょっと世界的なドル安という動きで、パーツが高くなってきているということで、ちょっとそこが懸念ですけども、全般的に見ると、生産状況、販売状況は大変良好で、やっとな投資の回収も始まったというふうに考えております。

山口：分かりました。3 点目、これすぐに終わると思います。構造改革のところ、21 ページ目になると思うのですが、20 年、21 年、22 年。

この中身は振り返ってみると、コストを下げるのところと、販売を拡大して実現するところ、販売を拡大して実現するところの中の、海外というのは見る限りはむしろ前倒しぐらいのペースでいくかなという感じがするのですが、一方、国内のアルミのマーケットというのは缶材が例えば、協会のデータなどを見るとマイナスだったりとか、この内情が非常に厳しい感じがしていて、この 210 というのを達成する中で、国内はちょっと厳しいのではないかというような感想というか、なんとなく出てきているデータで思うのですが、何か追加の施策とかが必要なのか、それとも自然体でいけば達成できるのかご解説ください。以上です。

新堀：ありがとうございます。新堀からご回答申し上げます。

基本的にはこの中身、われわれ構造改革の中身としては、われわれ自体の仕組みというか、いわゆる生産の仕組みであるとか、いわゆる売り方とか、そういったようなことを考えていって、全般的に損益分岐点を下げるようなことをやっていくことで、いわゆるわれわれ、中自体の体力を付けていくということがベースになっているので、それに向けた施策というのはきちんと打ってまいりますから、多少需要動向は振れても、そちらのほうに影響されて、これまでのことになるようなことはないというふうに考えておまして、そういったようなことをこの中での 2022 年 210 億は変えずに対応しているということを示させていただいております。

もちろんコロナの影響、そういったようなことの中で操業度とかそういうのも含めて、われわれ自体で非常にカバーがしにくいことはあるとは思いますが、基本的にはそれに向けてはいろいろな施策は別に見ていって、それを少しでも埋められるようなことは別途考えていきます。

山口：了解しました。ありがとうございます。長くありがとうございました。失礼いたします。

石原：山口さん、石原ですけどよろしいですか。

山口：はい。もちろんです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

石原：UATH の関係は、これ販売量を示してしまして、1 月突出している一つの理由の中に、コンテナの問題もありまして、この輸出のためのコンテナの手配だとかいうこともありながら、期を少しまたぐようなかたちになりますので、この販売量は突出していますけど、やはり生産力としては、およそ 32 万トンプラスアルファの生産能力がほぼ発現し始めたというようなふうにとっていたけると良いかと思えます。

山口：はい。良かったです。どうもありがとうございます。

山崎：ご質問ありがとうございました。それでは、次の方、お願いいたします。

オペレーター：それでは、モルガン・スタンレーMUFU 証券、白川様です。白川様、お願いいたします。

白川：はい。モルガン・スタンレー証券の白川です。本日はご説明ありがとうございました。聞こえますでしょうか。

山崎：はい。聞こえております。よろしくお願いいたします。

白川：質問、すいません。3 点お願いします。まず 1 点目が、タイのところでもあるのですが、今ちょっとコンテナのタイミングもあって 1 月は突出したというお話がありましたけれども、需要環境についてももう少し教えてください。

アメリカにも統計見ていると 12 月はかなり輸出もされていたような感じだと思うのですが、加えて中東にもかなり 12 月は数量が増えていて、東南アジアに関しても 11 月と比べれば、また数量がかなり増えていたと思うのですが、この需要というのが実需なのか、コロナの影響もまだあるかと思うのですが、この実需の継続性に関して、もうちょっと詳しく教えてください。これが 1 点目です。

それから、2 点目なのですが、こちらは今度北米に関してで、もう少し競合他社の状況も踏まえて、今後のこの TAA の事業の堅調さの継続性について教えてください。今、競合他社が自動車のアルミパネル材のほうにキャパを向けているといったところもあって、缶材のところはかなりタイトになっているといったところは理解しているのですが、これが来期も同じような状況が続いて、御社にとって優位な状況が続くのかどうか、どう見ているのかどうかといったところを教えてください。

それから最後、3 点目なのですが、今回リリースで出されていたタイの押出事業の撤退に関してといったところをもう少し教えて欲しいのですが、厳しい事業環境下で業績悪化というふうに書かれていますけれども、もう少し具体的に何が厳しかったのか、業績悪化とありますけれども、昨年度、それから今年度、どれほどの PL インパクトがあったのか、今後、まだちょっと 1 年ぐらいかけてという話もさっきありましたけれども、どのような PL インパクトをわれわれは予想したら良いのかということも加えて教えてください。以上 3 点です。お願いします。

川島：では、最初の 1 点目、2 点目は川島から答えさせていただきます。まずはタイの販売でございますけれども、ご承知のようにこれはタイ国内ではなくて、もちろんアメリカ、中東、オセアニアというところで販売が続いております。実需かどうかと言われると、そのように理解をしております。コロナの影響もあって一時的に下がりましたが、それをキャッチアップして、3 クォーター、10 月以降、それが戻ってきていると。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

今、成約状況で見ると、2021年、2022年まで実は生産販売で大きな部分がもう注文いただいているというところがございますので、これがそのまま続くというふうに考えております。

それから、北米の事業です。確かに、北米の競合の生産のキャパは、自動車パネル材が増えて、缶がという話はあるのですが、足元何が起きているかという、米国のほうでは環境というかたちで、ペットボトルから缶に変わってきているということで、缶の需要がどうでしょう。今、年間でいうと150~160万トンというところで、これがたぶん2022~2023年までにかけてピックアップすると。

これは需要というか、製缶メーカーさんのキャパがここでいっぱいになるのです。そこで止まるかと思ったのですが、実はここにきて製缶メーカーさんが新しいラインを9ライン、9工場作っています。それによって、2025年までに缶がさらに増えて、150~160万トンが200万トン、210万トンまで増えるというふうに予想されています。

だから、パネル材が増えたことによって、キャパの不足ではなくて、缶材自身がずいぶん増えてきている。あと40~50万トン増える。製缶工場でいうと1個半ぐらいの分が増えてくるというかたちで、実はTAAのほうはほとんどがもうソールドアウトというかたちで注文はいただいています。さらにいただけないかという注文に対しては、タイ(UATH)から当社は出しているということですね。

私どもは日本とタイと、それからアメリカと3局で運営しております。日本を見ると缶が少し元気ないので、世界的に見ると缶がだいぶ増えてきていると。これは東南アジア、アメリカともですね。これが自分たちの事業に大きく寄与しているというふうにご理解いただければというふうに思います。以上です。

新堀：あとは新堀から押出事業の話をご説明いたします。その前に先ほどの北米の関係ですが、実際にはそういうことで需要が増加している部分がございます。一部今、足元に関してはやはり、本当に家飲みとかで足りないという状況の中で、例えば中東とか南米からもいわゆる空缶で輸入しているというような状況です。

ですから、一部中東のところで需要が増えているというのは、そうした空缶輸出も含めて対応しているというところはあると思いますので、そういった部分はコロナと無関係ではないというふうには考えているところではあります。ただ、そういった意味で、いわゆるアルミを使われているということの意味でいきますと、非常に注目を浴びている中で、それに対応ということができているということでご理解いただければと思います。

あと、タイのアユタヤの撤退についてです。実際、タイのアユタヤの工場は2010年にいわゆる進出しました。主な目的は、自動車の熱交換器回りの配管材です。こちら、われわれ非常に高品質な材料を持っておりまして、これをいわゆるタイの日系メーカーを中心として、これをご採用いただくというようなことで、彼らの拡大に資するというところで進出したところでした。

しかしながら、われわれが進出したあと、コスト的には非常に安い作り方で対応するようなメーカーが、中国メーカー等が出てきたために、そちらのほうのコストが優勢になってしまいまして、われわれの意図する高品質、いわゆる高付加価値な材料というのがなかなか浸透が増えていかなかったというようなことがございまして、大変苦労してきたというところがございます。

一部の品種の転換とか、そういったようなことは進めてまいりましたけれども、やはりそういった需要というところの中では、いわゆる東南アジアとわれわれが持っているポテンシャルとの間にや

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



はりちょっとギャップがありまして、そういったことの中では、やはりそれに対応していくことが非常に厳しいということで、コスト的なリカバリーが進められなかったということでもあります。

そういったことの判断の中から、実際にはこのまま続けていくよりは、ここでは一度、立ち戻って撤退をしたほうが良からうということで、配管事業については撤退をいたしました。

タイについてはもう1工場、プラチンブリというところにいわゆる自動車熱交換器用の多穴管というものを中心に作っている工場がございます。そちらのほうは引き続き、生産を継続する中で、タイを中心とした東南アジアの、いわゆる需要というものをよく見極めて対応していきたいというふうに考えているところです。

今後、1年間での対応というところはそういった意味で、お客様との対応も含めて進めていくということですが、非効率な生産その他というのが出てくるという関係もございますので、連結での影響は否めないものと考えております。固定資産の減損とかそういったことも含めて、今後、最終的には売却が不可能とかそういったことも含めて、考えていかなければいけません、そこでの影響というのが出てくるものと思っておりますが、ほぼ金額的には。

川島：川島ですけども、アユタヤの工場のだいたい損が年間で2~3億というところなので、あと1年ぐらいはそのぐらいは出るのかなというふうに見ています。それから、今回の発表によって固定資産など、その閉鎖に向けて償却を落としていきますので、今それを加えているというふうにご理解いただければと良いと思います。

白川：大変よく分かりました。ありがとうございます。

石原：あと、TAAの缶材料のサステナビリティ性ですと、製缶ラインが増設されると同時に、休止していた缶材の圧延ラインですね。競合他社では、ずいぶん増産に入るような状況にございまして、今後のそのTAAの長期契約に少なからず影響はしますが、現在22年、23年までTAAにおいては、完売に近い状況となっておりますので、今後についてしっかりとその動向を見ていくという必要がございます。以上です。

白川：はい。ありがとうございます。

山崎：はい。ご質問ありがとうございました。それでは、次の方、お願いいたします。

オペレーター：続いて、野村証券、松本様からのご質問です。松本様、お願いいたします。

松本：はい。野村証券の松本です。よろしく申し上げます。

山崎：よろしく申し上げます。

松本：タイとアメリカのところですけども、かなり好調なようですが、一応この15ページで見ると、当初の第2クォーターのときの見通しとはそんなに大きく利益はぶれていないということで良いのかどうかというところをちょっと確認させてください。これが1点目です。

2点目は、タイのところでも今までお伺いしていたお話ですと、どちらかというと東南アジアで結構観光客がいなくなって需要が落ちてというお話が結構あったような気がするのですが、その部分の需要というのはどういうふうな推移になっているのかというところを教えてください。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



あと、3点目はちょっと川島さんのほうからお話がありましたが、厚板の今後の需要見通しについてちょっと教えてください。以上です。

川島：では、私のほうから。15 ページのところの 35 億から 10 億に好転したところというかたちでありますけれども、24 億、棚卸評価関係がずいぶんと良くなってきている、このところの実は大きな部分がアメリカです。TAA のほうの地金差が出てきているということで、もともと TAA のほうは販売もフルに見ておりますので、そこは大きく変わっておりません。少し好転しております。

大きいのはこの棚卸評価関係ですね。ここら辺が大きく業績のほうをプラスに引き上げているというふうにご理解いただければというふうに思います。

それから、UATH 業績改善のほうも見ていただくように、若干プラスでございますけれども、これが利いてきていると。ただ、他方は為替がちょっと、アゲインストに利いているので、少し相殺されているというふうにご理解いただければと思います。

それから、UATH の需要全般ですけれども、確かに 4 月、5 月の辺り観光客がなくなって、ずいぶん需要がなくなってきたと、家飲みはしないと。今のところ、ご存じのようにまだ世界的に観光客が増えているという状況ではありません。そこでは変わっていないのですけれども、他方で東南アジアも家で飲むとか、そういった実需が出てきているというかたちなので、自分たちが思っているよりは少し強くなっているのかなというふうに考えております。

それから、ちょっと厚板につきましては、私よりか社長のほうがよくご存じだと思うのですが。

新堀：厚板については私のほうからまず、簡単にご説明します。新堀からご説明します。厚板については、一番の需要はやはり半導体とか液晶関係とか、そういったようなところの需要に支えられているところはあると思います。従って、そのところが非常に旺盛ですので、そういった意味での装置関係というのはいわゆる拡大してくるものというふうに思っております、その辺には非常に期待を懸けているところであります。

今ただ、実際にはこのコロナの間でのいわゆる在庫の積み増しとか、いわゆる中間的なお客様の動向も含め、つかみきれていないところもまだございますので、その辺は注意深く、この辺の需要については見ていく必要がございますが、基本的には拡大するような方向で考えているところです。

あとは、LNG の関係とかについては、まだまだ厳しいところございます。ただ、そういったことの中で、小型対応などの需要が創出される可能性もございますので、それは引き続きフォロー、キャッチアップをしていくところであります。

その他、水素の関係とか、新しい燃料ということではわれわれの材料も、いわゆる貢献できるようなところもあるかなというふうに考えておりますので、今後そういったような新しい需要についても引き続き、フォローしてまいりたいというふうに考えているところです。

石原：石原ですけれども、こうやって、いわゆる液晶半導体装置についての今後の見込みはあまり大きくないのと、LNG についても 16 年、17 年ごろの水準までには到底及ばないというふうに思いますので、これは大変ポラリティ多いということも含めて、今後はその半導体装置関係はしっかりと取っていくというようなことで、堅調に推移させるということが必要かというふうに思います。以上です。

松本：はい。分かりました。ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

山崎：はい。ご質問ありがとうございました。それでは、次の方お願いいたします。

オペレーター：続いて、大和証券、尾崎様からのご質問です。尾崎様、お願いいたします。

尾崎：もしもし。大和証券の尾崎でございます。2点ありまして、まず一つ目がタイとあと、TAAの数量が強いということの背景なのですが、理解としては、ペットボトルからの置き換えというESG的なトレンドと、あと、コロナを受けた家飲み需要の拡大ということで、これがグローバルでアメリカも含めて缶材の需要を大きく上げているという理解で良いのかどうかというのを確認させていただきます。

昨年下半期から比べても、かなり急速に良くなっている印象があるのですが、こちら何か在庫積み増しとか、そうした特殊な要因があるのかないのかも確認させてください。

あと、併せまして、タイとTAAのこの契約の確保の状況ですけれども、数量とか期間ですね。何年までどれくらい確保できているのかとか、何か定量的なご解説が可能であれば教えてください。以上が大きな1点目でございます。

あと、2点目なのですが、これから先に構造改革を進めていく上で、おそらく特損というのが出てくることで、財務が毀損するというのが少し、構造改革を進める上でのハードルにならないのかなというふうな点、少し気にしてしまっていて、御社として構造改革を進めることと、あと、財務の規律を守ること、このバランスをどういうふうに考えているのかというのを教えてください。以上2点です。

川島：では、川島からまず、タイとアメリカの状況ですけれども、ご理解のようにペットは特にアメリカはペットが減ってきて、減らして、缶を増やすと。ペットとして脱プラというかたちで増えてきているということなので、需要自体がだいぶ増えてきています。家飲みと言われているけど、もともとアメリカは家で買って飲んだりしますから、あと、外出が減ってきているので、やはりその関係で実需がずいぶん強くなっているのだろうというふうに理解していただければ良いと思います。

東南アジアも同じかたちで、実需というかたちでペットが減っているかは、ちょっと私はそこまではよく知っておりませんが、全体としては人口が増えてきていますし、需要自体が増えてきているというところがあるのではないかなというふうには思います。

それから、契約ですけれども、聞くところによると、タイのほうにつきましては、2021年についてはほぼ契約で、全部ではありませんけれども埋まっていると。それから、2022年については今、契約の半分ぐらい埋まっていて、さらにそれを今もう少しさらに詰めていると。需要はずいぶん来ているので、この最後の調整をしているというふうに聞いております。

それから、米国のほうは先ほど社長からもありましたけれども、2023年ほどまでずいぶんと長期契約でもう埋まってきているというところで、大缶については強い需要があるというふうに考えています。

それから、最後の財務規律のところでございますけれども、確かに特損というのは出てくるというふうに考えておりますけれども、今年の損益で特別損益を40億見ております。これは先ほどの、これが一番ピークだと思っています。すでに昨年も落としていますし、今年40億。まだ全部ではご

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ざいせんけども、来年、今年ぐらい出るかというと思いません。従って、特損の一番大きなピークは今年度というふうに考えています。

財務規律の特損ということでございますけども、今期につきましてはコロナの影響もありましたし、特損があるというかたちで、最終損益が赤字というかたちで、株主資本を少し毀損しております。来年度以降は、コロナがなくなって、コロナの影響は残るかもしれませんが、今年のような損益ではなくなってくる、特損も減ってくると思いますので、来年度以降は株主資本はプラスになってくると。

それから、先ほども触れましたけれども、今年のフリーキャッシュフロー。この3クォーターまでのプラスと。それから、コロナの状況はあったのですけれども、できるだけ在庫を減らす。設備投資もピークアウトをしているということで、3,440億の借入金、ちょっと先ほども触れましたけれども、3,370~3,380のところまで減らせるだろうというふうに考えておりますので、財務規律では、そんなに急激に好転するわけではありませんけども、着実に財務体質は好転している。

財務規律についてもキャッシュフローを守るといって動いていけるのではないかなと考えております。

尾崎：はい。分かりました。ありがとうございました。

山崎：ご質問ありがとうございました。そろそろ予定のお時間がまいりましたので、本日のカンファレンスを終了させていただきます。また、今後のお問い合わせにつきましては、コーポレートコミュニケーション部までお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。今後とも弊社を引き続き、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

石原：どうもありがとうございました。

オペレーター：以上をもちまして、株式会社UACJ、2020年度第3四半期決算説明を終了させていただきます。

[了]

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com